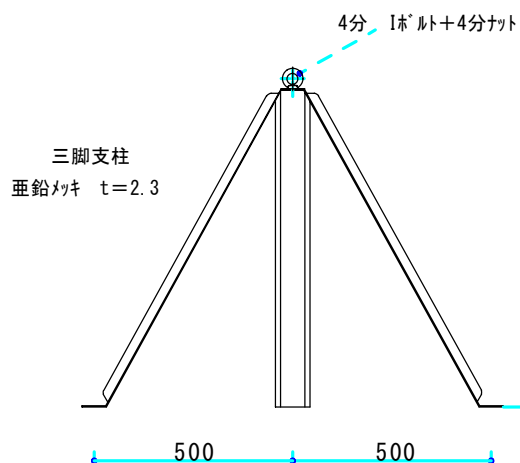
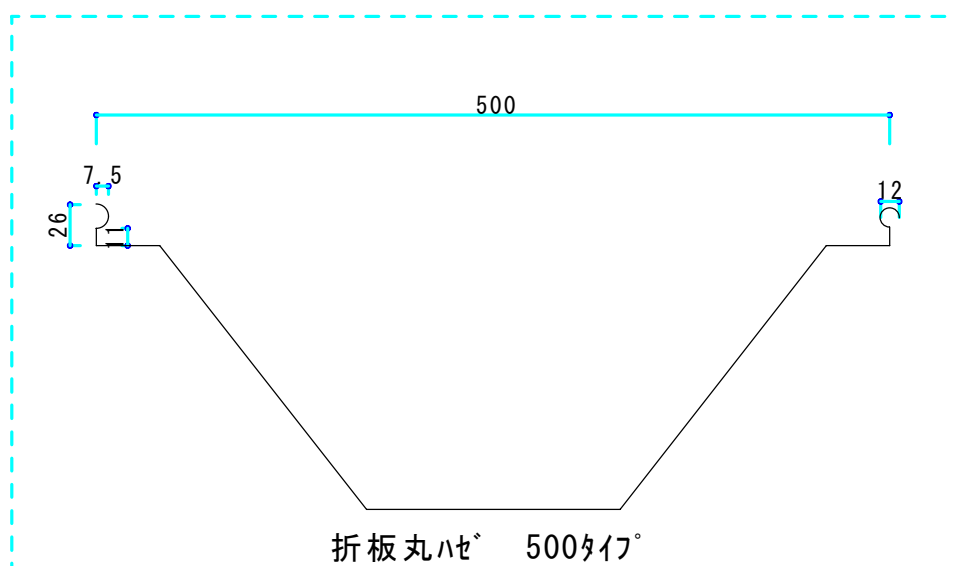


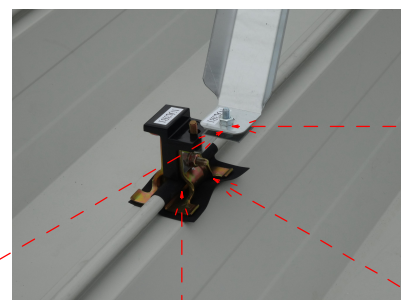
N0、 2 メッキ 1 型 丸ハゼ

丸ハゼ 折板



折板最上部より三脚リング中心（親綱設置位置）までの寸法

*ダン吉W ナット側に取付
ショックアブソーバー
t=2.3 メッキ



中間部にナットを取付
位置を決める定規用

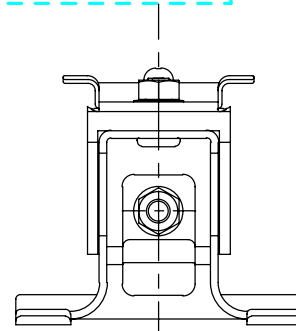
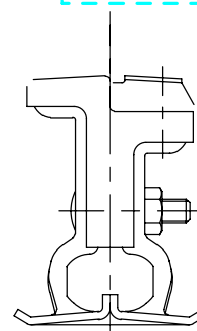
保護用ゴムシート t=1.2mm

折板つかみ金物 ダン吉W
丸ハゼ用 サカサ製作所
ショックアブソーバー t=2.3 メッキ
保護用ゴムシート t=1.2mm 106



折板つかみ金物 ダン吉W
丸ハゼ用 サカサ製作所
ショックアブソーバー t=2.3 メッキ
保護用ゴムシート t=1.2mm

105

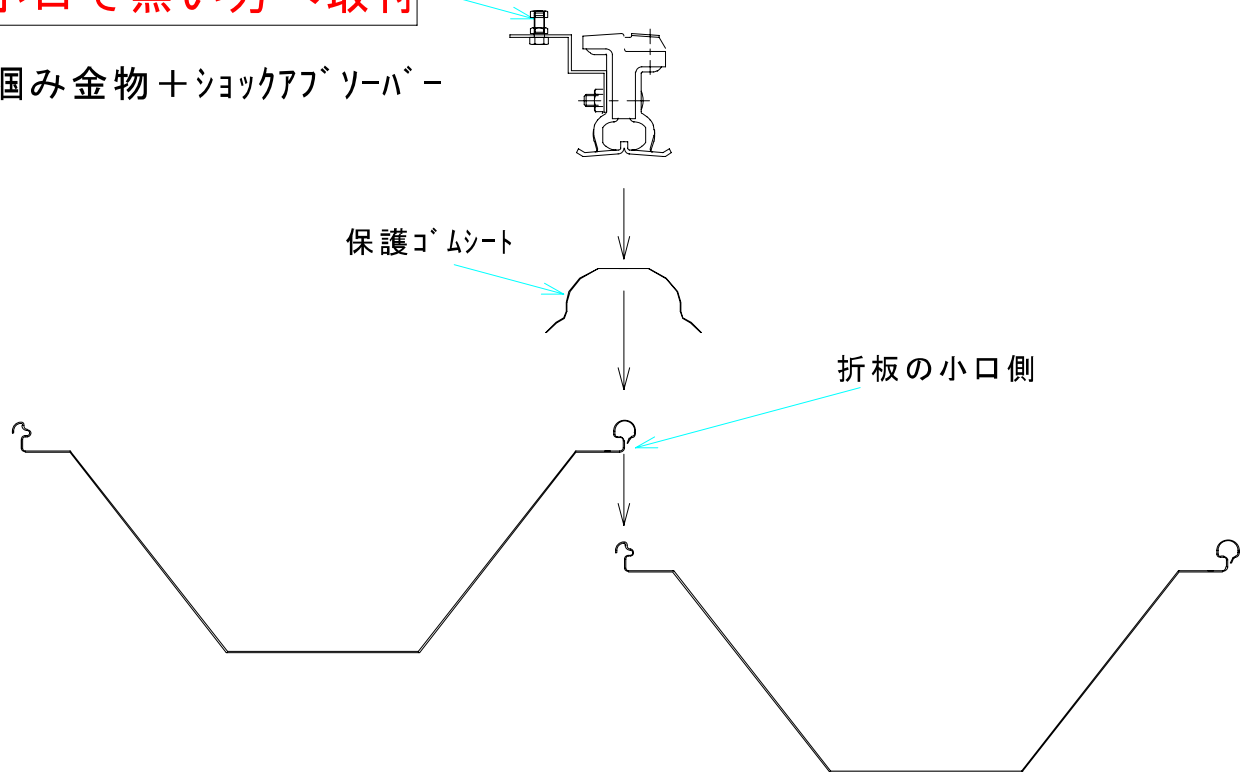


丸ハゼ 折板の掴み金物の取付け方向

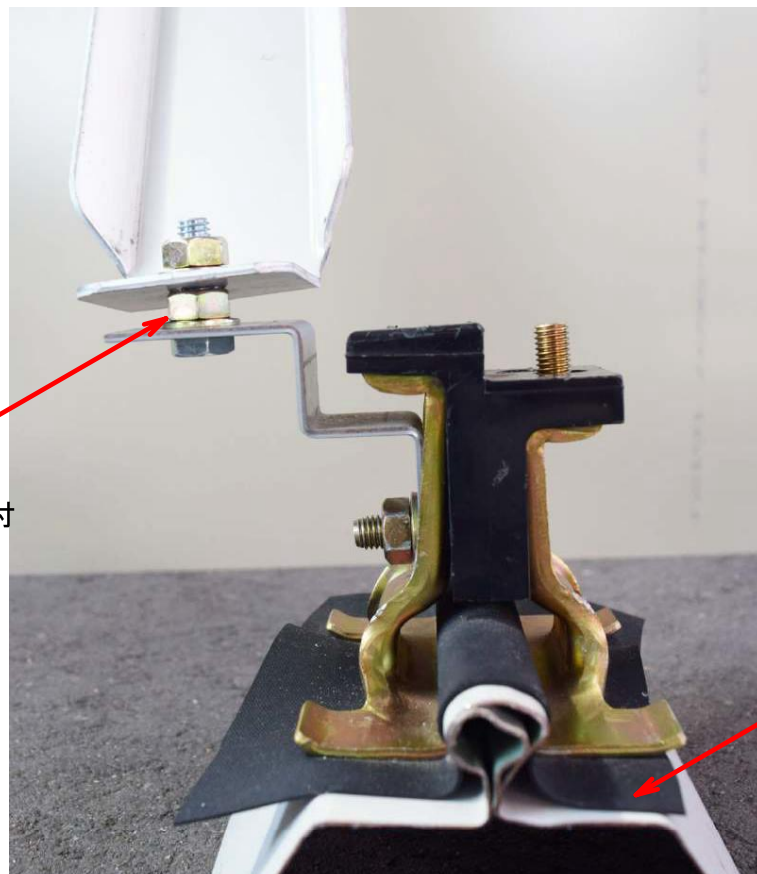
別紙③

ボルトのセットされた方を
折板の小口で無い方へ取付

丸ハゼ 掴み金物 + ショックアブソーバー

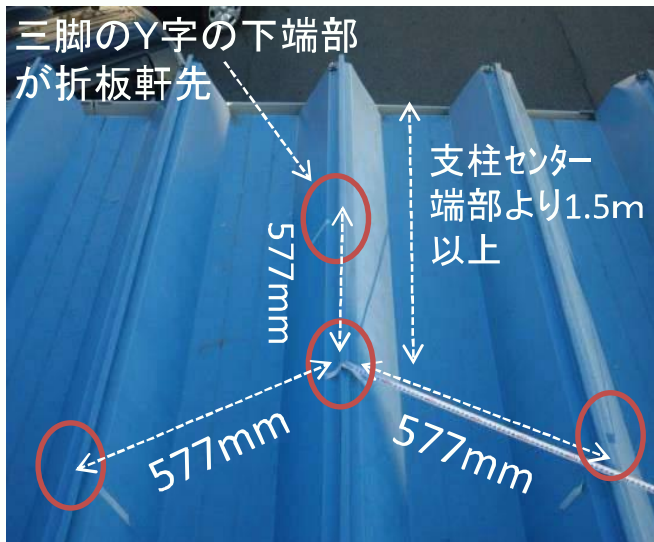


ナットの上に三脚支柱取付



三脚支柱

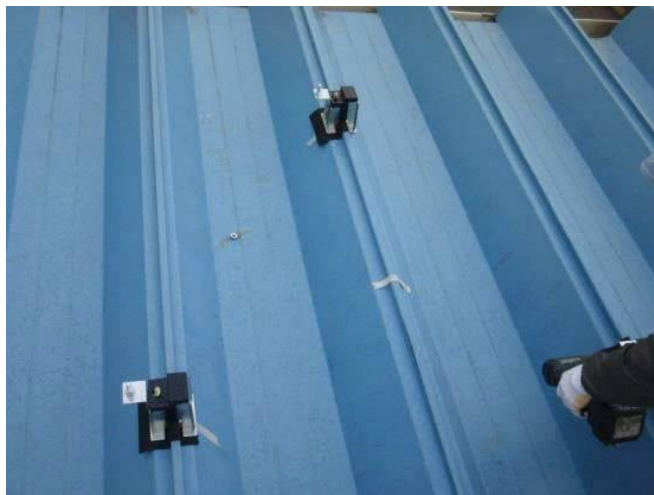
取付手順



① 取付位置墨出し

三脚支柱のセンター位置(頂点)を折板のハゼ部にマーキングし、そこから577mm離れた折板のハゼ位置を3カ所マーキングする(三脚のY字の下端部が折板軒先側にくるようマーキング) センターの位置は端部より1.5m以上離してください

三脚支柱取付向きは別紙⑦参照



② 掴み金物取付

マーキングした位置が掴み金物センターにくるよう専用ゴムシートを敷き掴み金物をインパクトにてしっかり固定する(締付けトルクはトルクレンチにて55N・mとする) 別紙⑥参照

画像は角形掴み金物であるが、丸形掴み金物も同様に取付ける。

丸形掴み金物取付け向きは別紙③参照



③ 三脚支柱組立

支柱材の曲げ部が外側(図のように)にくるよう三脚を組立て上部を1ボルトにて固定



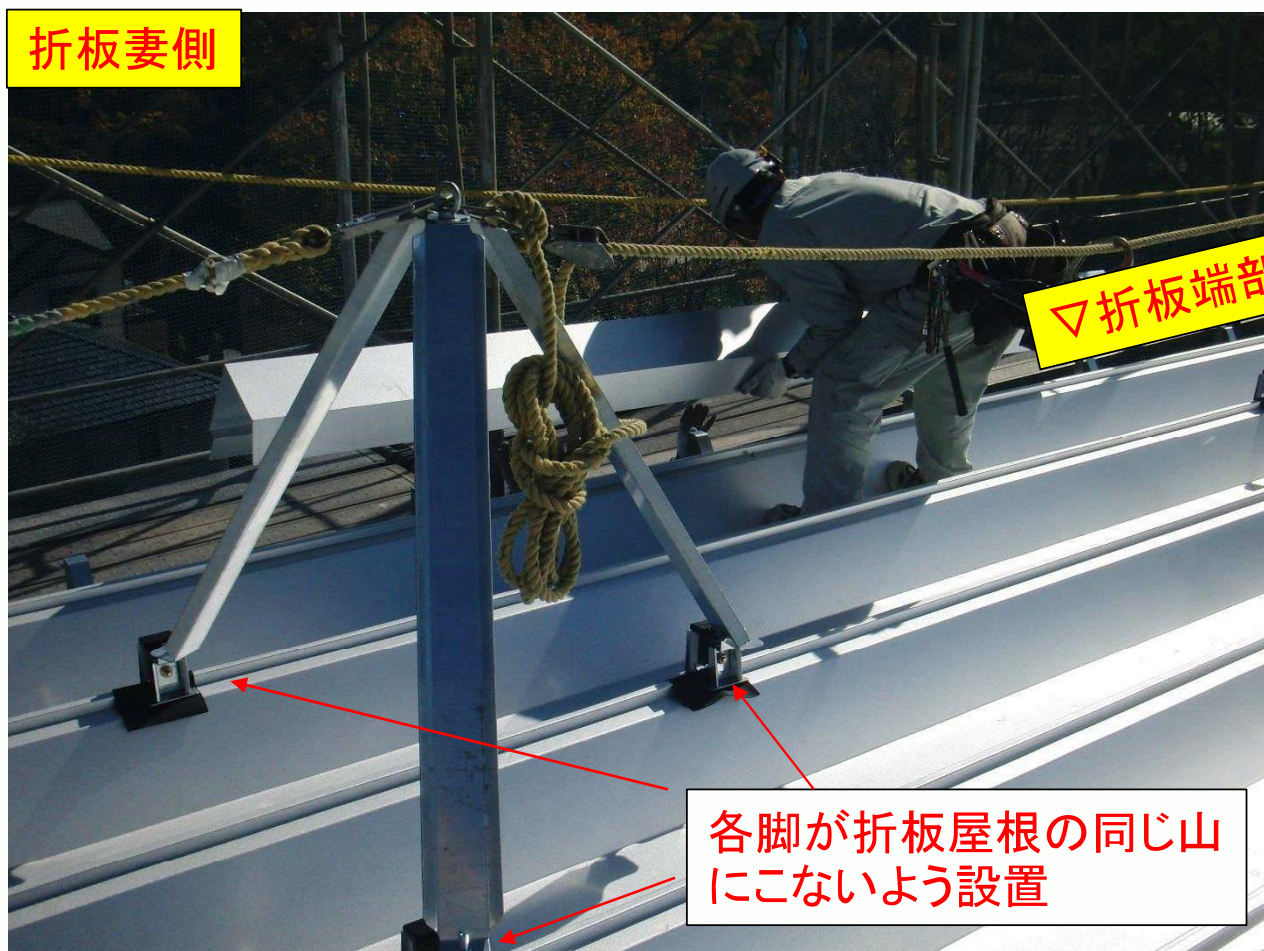
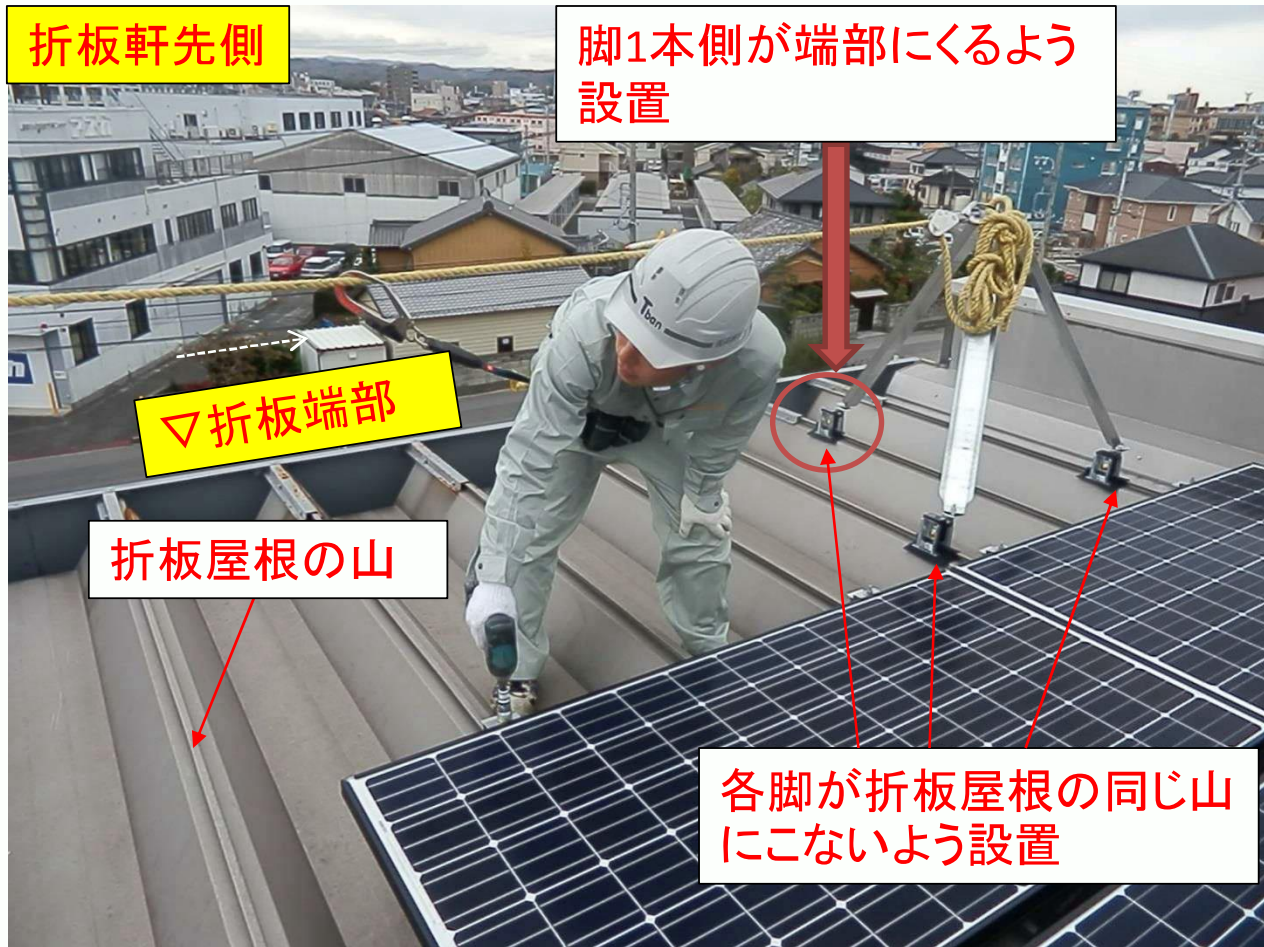
④ 三脚支柱取付

掴み金物のボルトへ三脚支柱の脚の穴を入れナットを取付インパクトにて三脚の脚3カ所とボルトのナットをしっかりと固定し親綱設置

三脚支柱 取付向き

別紙⑦

1型、2型、3型共通事項



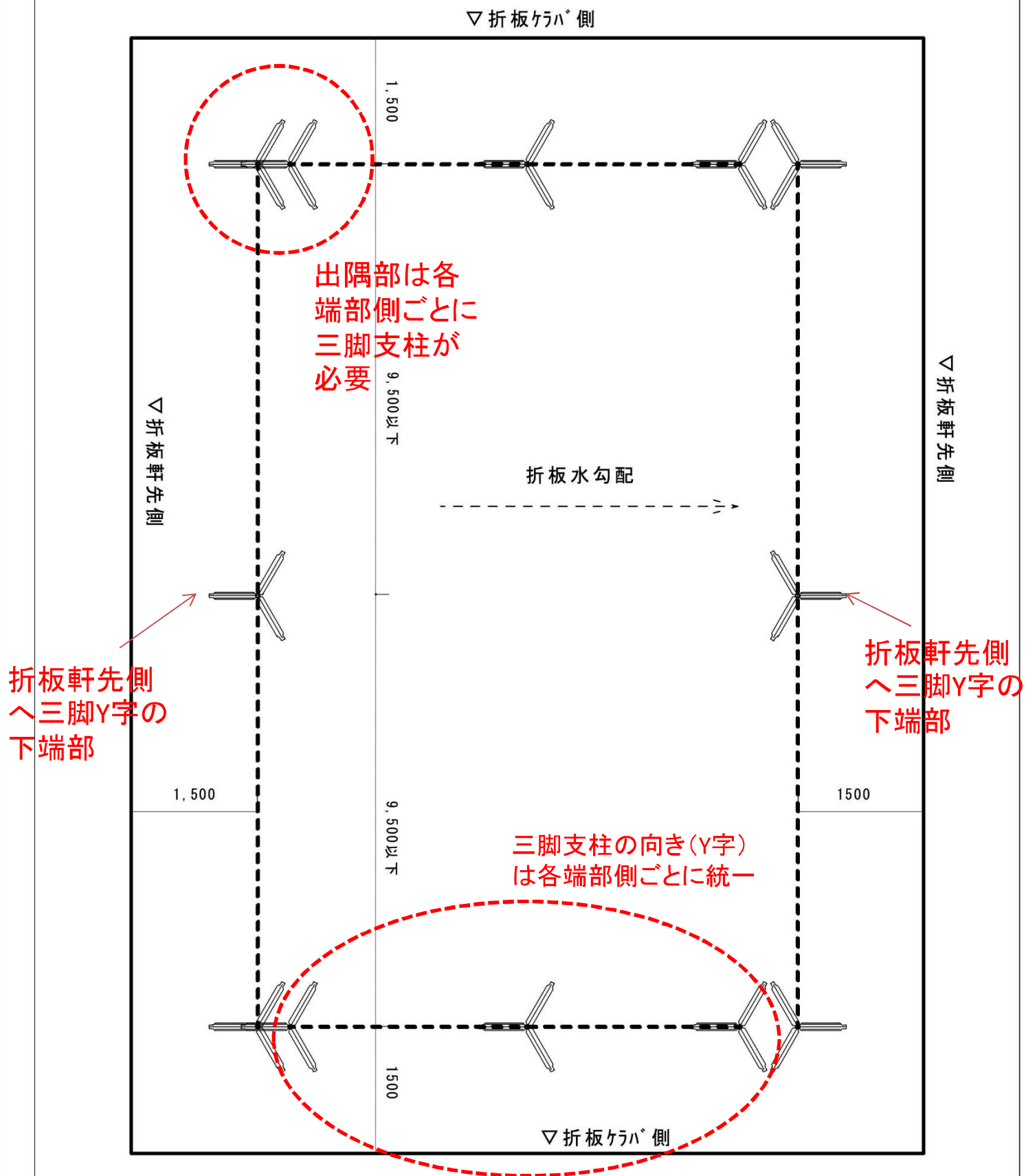
取付及び使用する前には必ず使用基準をお読み下さい

- 1 衝撃するおそれのある床面等より **4m以上の高さ**が折板の上部で確保されていること
フルハースタイプ[®]の安全帯使用時には、**4.5m以上の高さ**を確保すること（平成 28 年 4 月追記）
- 2 折板の形状は角ハゼ[®] 500（300）、丸ハゼ[®] 500（300）、BL500、ルーフィックとし、それぞれ指定した掴み金物を使用すること（掴み金物の取付困難な折板及びへこみ等で変形した折板には使用禁止）
- 3 掴み金物と折板の隙間は専用の保護ゴムシート t=1.2 mmにて養生すること（1 型のみ）
- 4 三脚支柱の間隔（1 スパン）は **9.5m以内とし、1 スパン 1 人**までで使用する
- 5 三脚支柱の中心が折板端部（軒先、ケバ[®]、開口部）より離れ **1.5m以上**離して設置すること
- 6 必ず支柱用親綱はポリエステル製φ16（仮設工業会認定品）を使用し（ワイヤーロープ等は使用禁止）緊張器にて十分緊張させること
- 7 折板施工時、三脚支柱を設置する場合は、掴み金物を取付ける箇所より流れ方向上下 **4m以上連続ハゼ[®]締め完了後**、掴み金物を取付けること
- 8 墜落等で衝撃を受けた支柱及び変形をした掴み金物は使用しないこと
- 9 設置及び撤去作業時は**保護手袋**を着用すること
- 10 丸ハゼ[®]、BL500 の掴み金物の取付方向は別紙③、④にて確認が必要（下記 QR コード[®]内の別紙参照）
- 11 安全帯（ランヤード[®]長さ L=1.7m以下）、支柱用親綱は安全性の確認されたものを使用すること
- 12 折板屋根の勾配は 10%以下とします
- 13 三脚支柱の上部リングに直接安全帯を使用しないこと
- 14 折板**出隅部の三脚支柱の設置は下記 QR コード[®]内別紙⑤**の基準による
（**出隅部は三脚支柱が連続して 2 脚必要**）
- 15 三脚支柱、掴み金物等部材は放り投げたり衝撃を与えないこと
- 16 掴み金物を折板に固定するトルクは **5.5kN・cm** とすること
- 17 親綱、安全帯等が落下衝撃により折板の端部等にて損傷されるおそれがある場合は事前に養生等を行うこと、又タイトフレームのスパ[®]ンや折板の板厚等により落下衝撃による折板の損傷具合は異なる
- 18 下記 QR コード[®]内の三脚支柱取扱説明の各資料を確認すること
- 19 三脚支柱使用時はフルハースタイプ[®]の安全帯の使用を推奨とする。

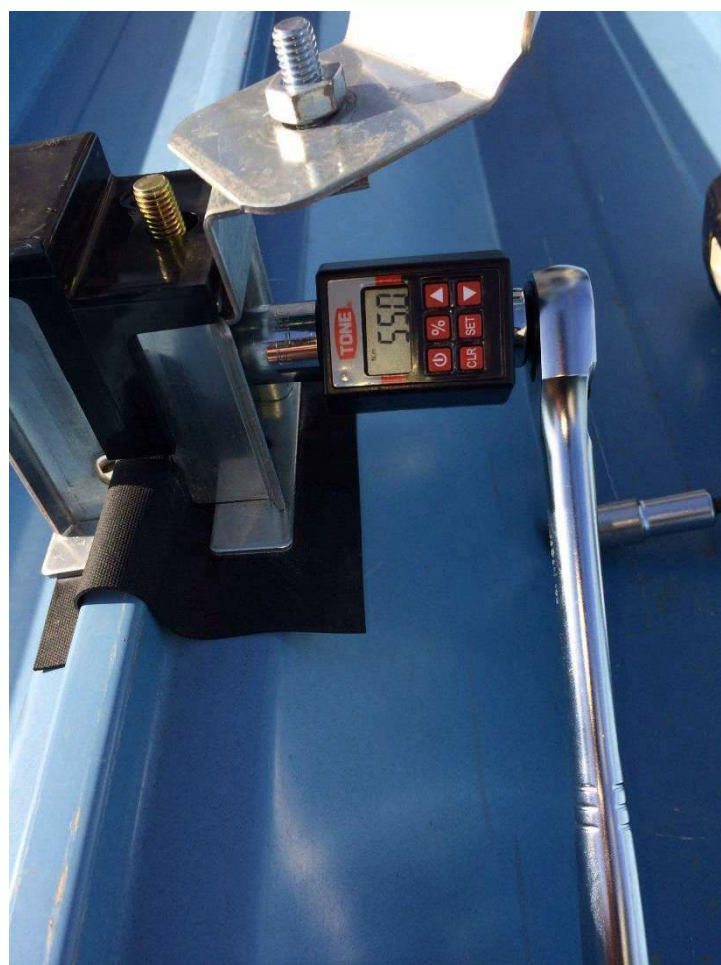


三脚支柱(墜落防止用)取付 平面図

別紙 ⑤



掴み金物は55N・mにてナットを
締めて下さい

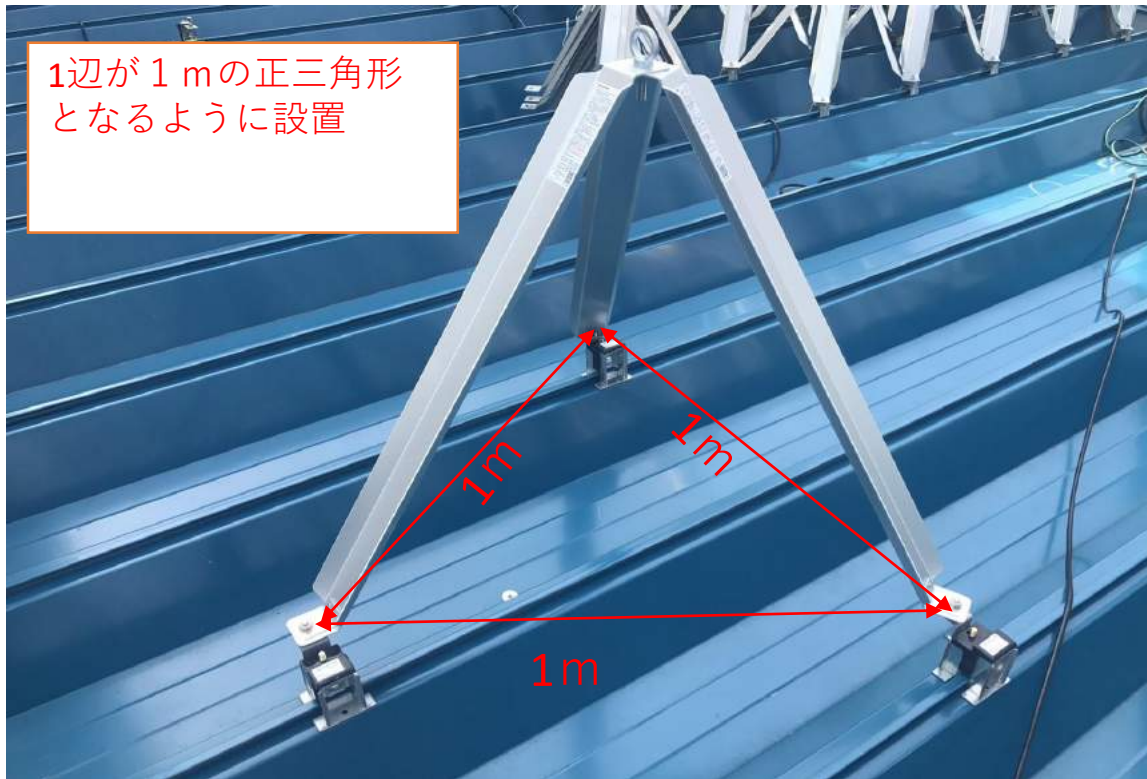


トルクレンチにて締付けトルクを管理し
て下さい(L=25cmのシノで約22kgで
しめる力)

三脚支柱本体の変形について（欠品対象）

三脚支柱は画像①のように底面の1辺が1 mの正三角形となるように設計されております。よって、底面が正三角形以外の形状で設置した場合、三脚支柱本体の端部の角度が変形する場合があります。

万が一、変形した場合、欠品の対象として、画像②のように三脚支柱の両端部の曲げ角度が118度から126度の範囲外の変形とします。（118度から126度の範囲でご使用下さい。）



画像①



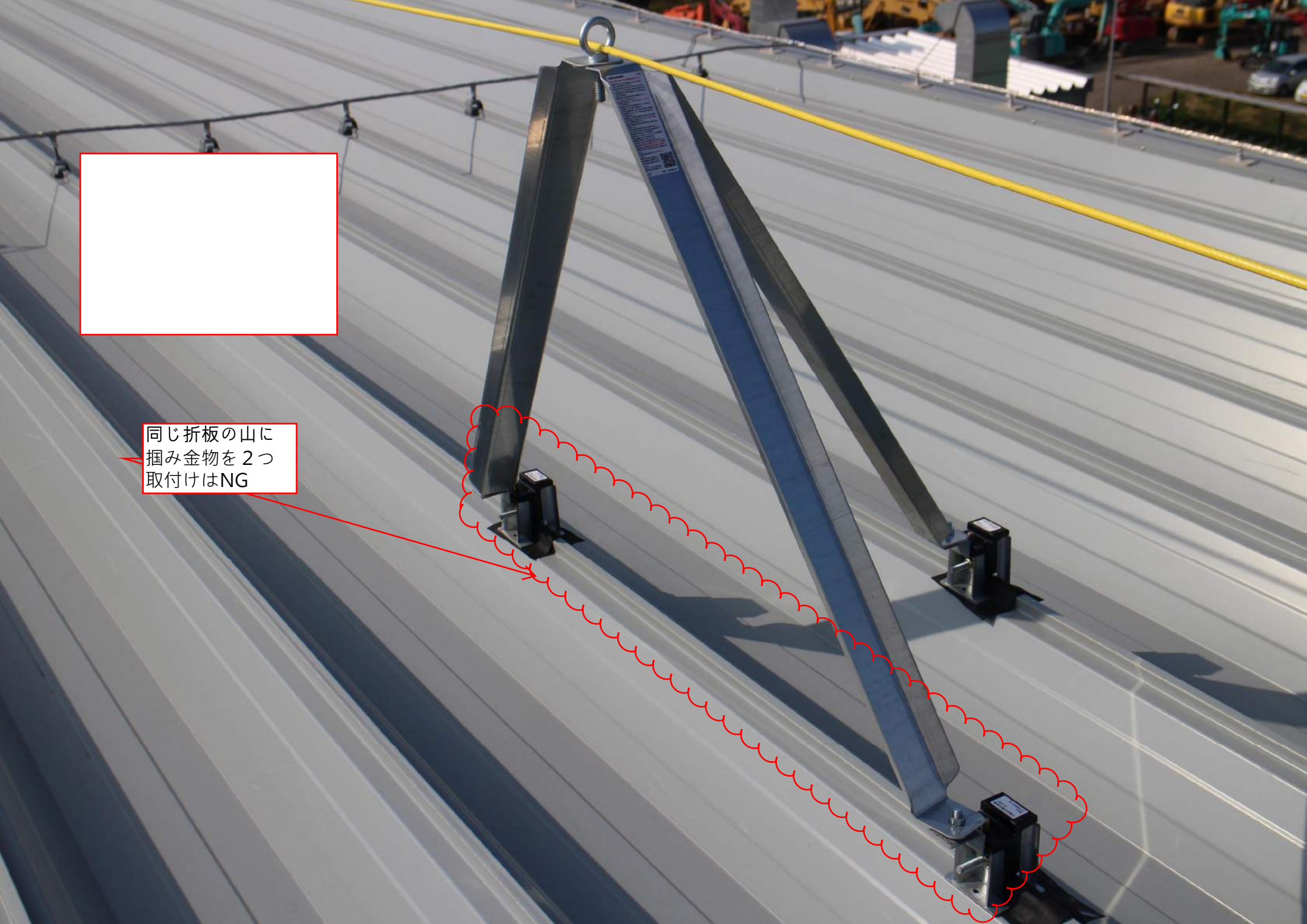
画像②

正しい括み金物取付位置は、
1辺が1mの正三角形となります。

同じ折板の山に2つの括み金物
を取付けた場合、正三角
形が作れません。

同じ折板の山に括
み金物を2つ取付
けはNG





同じ折板の山に
掘み金物を 2 つ
取付けはNG



同じ折板の山に
掴み金物を2つ
取付けはNG

